

「手を動かしてまなぶ 集合と位相」(第5版1刷) 正誤表
(2024年12月25日版)

場所	誤	正
p. 18, 上から4行目	$2 \cdot 3$	$2 \cdot 1$
p. 67, 上から5行目	X	Y
p. 68, 上から5行目	可算でない	高々可算でない
p. 72, 上から5行目	可算でない	高々可算でない
p. 75, 下から9行目	f^{-1}	g^{-1}
p. 79, 上から3行目	0.00908706005	0.00908706005...
p. 86, 上から1行目	このとき	ここで
p. 86, 上から1, 2行目	となり	なので, これは
p. 100, 上から9行目	可算でない	高々可算でない
p. 104, 上から6行目	ノルム	内積
p. 134, 下から1行目	定理 17.6	定理 17.4
p. 158, 上から13行目	$B(p, \frac{1}{2}d(p, q))$	$B(p; \frac{1}{2}d(p, q))$
p. 186, 上から4行目	O	X の位相
p. 196, 下から10行目	$\mathfrak{U}^*(x)$	$\mathfrak{U}^*(x) \subset \mathfrak{U}(x)$
p. 219, 上から10行目	(X, \mathcal{O})	(X, \mathfrak{D})
p. 284, 図 36.1	\mathbf{R}^n	\mathbf{R}^{n+1}
p. 293, 解 11.3	a (3箇所)	a'
p. 297, 下から14行目	$-(g(x) - h(x))$	$+(g(x) - h(x))$
p. 304, 解 26.5	\mathbf{Q} の空でない	A の空でない
p. 305, 解 27.4	$(U_\lambda)_{\lambda \in \Lambda} \cup (X \setminus A)$ (2箇所)	$(U_\lambda)_{\lambda \in \Lambda} \cup \{X \setminus A\}$

その他

- p. 77, 下から6行目: 「したがって,」 の直前に次を追加する.

さらに, $[0, 1]$ から \mathbf{R} への包含写像は単射である.

- p. 302, 解 23.6 (4): 冒頭に次を追加する.

\mathfrak{D} を \mathfrak{D}_u および \mathfrak{D}_l より大きい \mathbf{R} の位相とし,

- p. 305, 解 27.4: 「このとき, $\sim X \setminus A$ となる。」 の部分を次と差し替える.

このとき, 相対位相の定義 (\rightarrow 定理 20.1 および p. 160) より, 各 $\lambda \in \Lambda$ に対して, X のある開集合 V_λ が存在し, $U_\lambda = V_\lambda \cap A$ となる. さらに, $(V_\lambda)_{\lambda \in \Lambda} \cup (X \setminus A)$ は X の開被覆となる. X はコンパクトなので, $(V_\lambda)_{\lambda \in \Lambda} \cup (X \setminus A)$ の有限部分被覆が存在する. すなわち, ある $\lambda_1, \lambda_2, \dots, \lambda_n \in \Lambda$ が存在し, $X = \left(\bigcup_{i=1}^n V_{\lambda_i} \right) \cup (X \setminus A)$ となる.